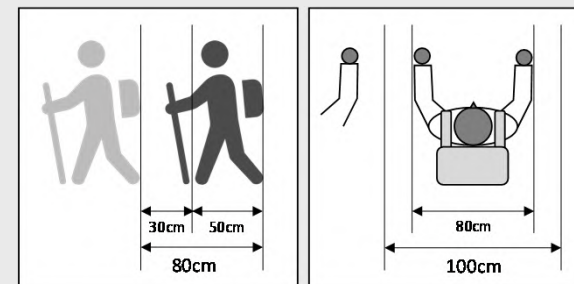


## 収容力調査結果を用いた登山者数に係る指標・水準の設定

## 登山者密度の定義

## ◆富士山における混雑基準

- 登山時において、前後左右の人と接触しないために必要な距離を次のとおり設定。
  - 前後 80cm (腕や足を繰り出す際に必要な前者との空間 [ 30cm ] + 人の厚み [ 20cm ] + ザックの厚み [ 30cm ] )
  - 左右 100cm (人の幅 [ 80cm ] + ストック (トレッキングポール) や金剛杖の振れ幅 [ 左右各10cm ] )
- よって、一人当たり必要面積は最低 $0.8\text{m}^2$ /人。
- これを密度 (  $1\text{m}^2$  当たり登山者数 ) に換算すると、 $1.25\text{人}/\text{m}^2$  となり、密度がこれ以上になると混雑すると定義。



推計結果に示す登山者密度の色	白	黄	橙	赤
基準 (人/㎡) (登山者の間隔)	~ $0.67\text{人}/\text{m}^2$ (間隔100cm以上)	$0.67\sim 1.00\text{人}/\text{m}^2$ (間隔100-50cm)	$1.00\sim 1.25\text{人}/\text{m}^2$ (間隔50-30cm)	$1.25\text{人}/\text{m}^2\sim$ (間隔30cm以下)
登山者の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の登山者を気にせずに自分のペースで歩行が可能。</li> <li>手を広げても周囲の登山者とぶつかることはない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前後に登山者はいるが、連続歩行が可能。</li> <li>手を広げるとストック等が周囲の登山者にぶつかる危険がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時々立ち止まる必要がある。</li> <li>前の登山者に注意しないと、急に立ち止まった際にぶつかる危険がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止まりながら徐々に進む。</li> <li>ストックやザックがぶつかり合う。</li> <li>前方の登山者が転倒した場合、巻き込まれる危険性がある。</li> </ul>
				

## 「著しい混雑」の定義

山頂から九合目までの区間において、登山者密度が $1.25\text{人}/\text{m}^2$ 以上になる状態が同時に複数箇所が発生し、かつ、一つの区間で1時間以上継続する又は2区間以上連続して発生する状況。



# 【富士宮口】

登山者数  
(前日8合目通過者)

1,000人

1,500人

2,000人

2,500人

登山者密度

九合五勺  
(胸突山荘)

九合目  
(万年雪山荘)

No	1,000人 [人/m <sup>2</sup> ]														1,500人 [人/m <sup>2</sup> ]														2,000人 [人/m <sup>2</sup> ]														2,500人 [人/m <sup>2</sup> ]													
	2.00	2.30	3.00	3.30	4.00	4.30	5.00	5.30	6.00	6.30	7.00	7.30	2.00	2.30	3.00	3.30	4.00	4.30	5.00	5.30	6.00	6.30	7.00	7.30	2.00	2.30	3.00	3.30	4.00	4.30	5.00	5.30	6.00	6.30	7.00	7.30	2.00	2.30	3.00	3.30	4.00	4.30	5.00	5.30	6.00	6.30	7.00	7.30								
7	0.01	0.01	0.11	0.27	0.41	0.60	0.65	1.04	1.00	0.61	0.88	0.98	0.01	0.01	0.11	0.27	0.41	0.60	0.65	1.04	1.00	0.61	0.88	0.98	0.01	0.01	0.11	0.27	0.41	0.60	0.65	1.04	1.00	0.61	0.88	0.98	0.01	0.01	0.11	0.27	0.41	0.60	0.65	1.04	1.00	0.61	0.88	0.98								

胸突山荘～山頂直下の所要時間

日中出発	34分	日中出発	33分	日中出発	32分	日中出発	31分
午前3時出発	47分	午前3時出発	52分	午前3時出発	57分	午前3時出発	62分

登山者意識

登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	2.8% (61.9%)	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	6.6% (44.8%)	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	10.4% (27.7%)	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	14.2% (10.6%)
山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	2.6% (61.5%)	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	4.2% (44.6%)	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	5.8% (27.7%)	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	7.4% (10.8%)
無理な追い越しによる危険があった	7.4%	無理な追い越しによる危険があった	18.6%	無理な追い越しによる危険があった	29.9%	無理な追い越しによる危険があった	41.2%

登山者の様子



解説

- ・御来光後に山頂直下で比較的密度が高くなるが、密度赤が発生することはない。
- ・御来光後に山頂直下で密度赤の状況が1時間程度発生するが、他の区間で密度赤が発生することはない。
- ・御来光後の山頂直下の混雑(赤密度)の継続時間が長くなる。また、下の箇所でも登山時および下山時に赤密度が発生、44周辺では同時間帯で2区間に渡っている。
- ・御来光後に山頂直下で長時間に亘り密度赤の状況が発生し、7時30分頃まで解消しない。また、複数の区間において密度赤の状況が見られるとともに、1時間以上継続する箇所や2区間に亘って連続する箇所も見られる。

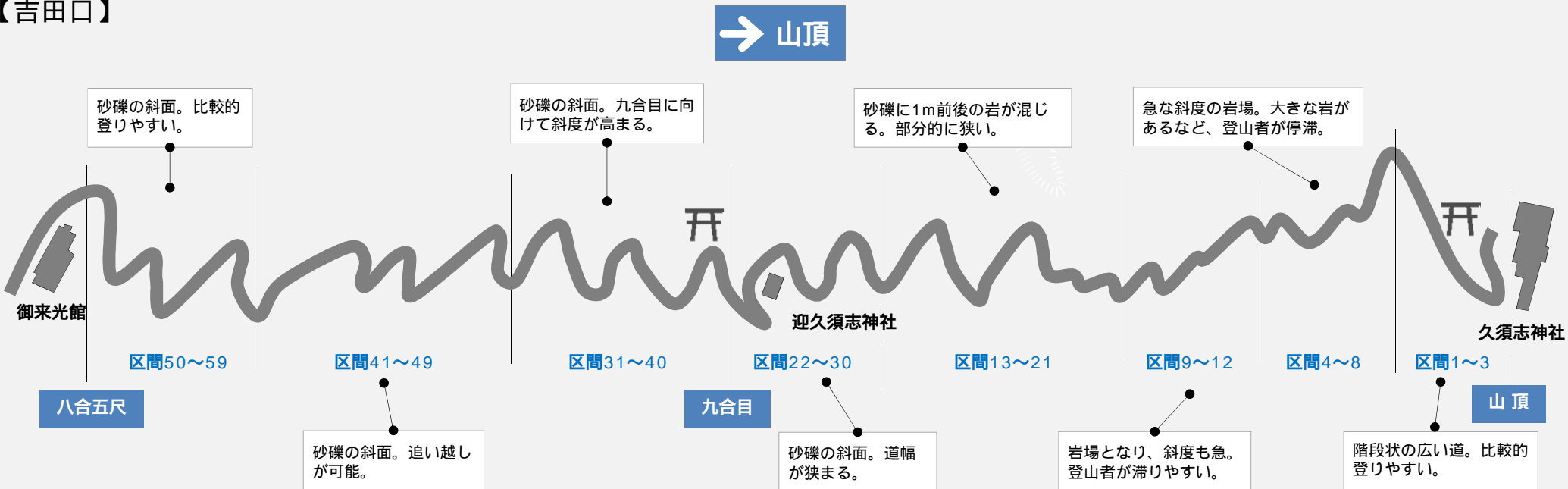
## 登山者数に係る指標水準の考え方

- ・「著しい混雑が発生する登山者数/日」は、吉田口3,500人～4,500人程度、富士宮口1,500人～2,500人程度を想定。
- ・さらに調査結果の分析を進め、「著しい混雑が発生する登山者数/日」を定める。



## <参考> 調査区間の特徴

### 【吉田口】



### 【富士宮口】

